

推薦入試作文問題

公文国際学園中等部

【問題 2】

科学技術の進歩は、私たちに健康で快適な生活をもたらしてくれますが、その反面、環境（かんきょう）問題や人口・食料問題を引き起こすなど、さまざまな問題点も同時にかかえています。

1939年に初めて合成され、世界中で広く使われた DDT(ディー・ディー・ティー)という薬品があります。かつて、DDT は強力な殺虫剤（さっちゅうざい）としてマラリアなどの伝染病予防に高い効果を発揮し、年間数百万人もの人命を救いました。マラリアの病原体を人間に運ぶ役割の蚊（か）を退治したからです。また、農薬としても用いられ、害虫駆除（くじょ）に成功した結果、農作物の生産量増加に大きく役立ちました。（このため、DDT の発見者はノーベル賞を受賞しています。）ところが、その後、DDT には生物の体内に蓄積（ちくせき）され続ける性質があることが問題となりました。その結果、世界的な規制が一気に進み、今ではほとんどその製造や使用が禁止されてしまいました。その一方で、マラリアになやむアフリカやアジアの国々の中には、DDT が禁止されてしまったために、その患者（かんじゃ）数が以前の状態に逆もどりしてしまった国もありました。

DDT は現在、マラリア予防が必要な一部の国でのみ殺虫剤としての使用が認められています。そこで、これらの国での DDT の使用再開にあたり、使用の意義と守らなければならないことがらを決めてルールが提案されました。あなたならどのようなルールを提案するか、考えをまとめて501字以上600字以内で述べなさい。

【資料①】 DDT をめぐる年表

年月日	こと
1939 年	スイスで DDT が開発される。
1946 年	日本で DDT の製造が始まる。
1949 年	東京都が学童のアタマジラミの駆除を、DDT を使って始める。
1962 年	米国のレイチェル・カーソンが『沈黙（ちんもく）の春』を出版する。
1971 年	DDT の使用が禁止される。
2001 年	残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約が採択される。

【資料②】『くらしの中の知らない化学物質』（くもん出版）より



（文字が小さいため説明は省略）

【資料③】 DDT とスリランカにおけるマラリア患者数

(T.H.Jukes, Naturwiss, 81, 8 (1974) より改変)

年	患者数
1946 (DDT 散布開始)	2,800,000
1961	110
1963	17
1964 (DDT 散布中止)	150
1966	499
1967	3466
1968～69	2,500,000

【資料④】 スリランカの位置



【資料⑤】 (あくじゅんかん)

「化学薬品散布の歴史をふりかえてみると、悪循環の連鎖そのものといえよう。事態は無限に悪化してゆくのではないだろうか。DDT が市販されてから、毒性の強いものが次から次へと必要になり、私たちはまるでエスカレーターにのせられたみたいに、上へ上へと止まるところを知らずのぼっていく。」

(レイチェル・カーソン『沈黙の春』より)

【資料⑥】 「残留性有機汚染物質 POPs(ポプス)に関するストックホルム条約」より

1. アルドリンなどの9物質については、製造・使用・輸出入を原則禁止。DDT については、マラリア予防の必要な国以外での製造・使用を原則禁止。
2. 意図せず生成してしまうダイオキシン類、ヘキサクロロベンゼン、PCB(ピー・シー・ビー)はできる限り廃絶（はいぜつ）することを目標として削減（さくげん）。
3. POPs をふくむ在庫や廃棄物（はいきぶつ）の適正管理および処理。